

アピモンディア近信

渡辺 英男

次の世代に、ミツバチが飛び交う自然環境を残したい一念で、環境問題をカバーする養蜂経済部門を科き受けたが、世界が激変し、自然環境の悪化が進む中で、予想以上に難問が山積している。

北京大会以降、他の役員や養蜂経済常任委員等と書状やファックスで意見を交換し、アピモンディア並びに担当部門の意見を総括して、5月の役員会（5月6～9日、フェルネイポルテイ、フランス）に臨んだが、各役員共同様の準備をして来ていたので、その調整に長時間を要した。

今回の重大議事は、世界の変化に対応して、アピモンディアの機能をより活性化するために、定款及び附則の改正案を作成することであったが、事務局案を遥かに超える事項が提案されたため、調整に時間が足りず、これから、書状やファックスで継続することにした。明年、ローザンヌ大会で改正し、100年を区切りに、未来に続くアピモンディアを築こうと目論んで

いるので、急いで結論を出さないでよかったと考えている。

定例の、国際養蜂会議の運営も大きな議事で、これには、スイスの組織委員会のメンバーも大勢加わって、討議した。結果は、後述の通りであるが、より多くの参加者を募るため、またより多くの人達に親しんで頂くため、数々の工夫が成されている。

名古屋大会には、スイスから82名もの参加があったが、日本の印象は非常によかった様で、日本で受けた親切を返したいので、沢山来てくれるよう伝えて欲しいと頼まれた。

ローザンヌは、レマン湖のほとりアルプスを望む景勝の地である。中日に企画されている養蜂見学旅行先はこれに勝るとも劣らない。そして、何よりも、ホストとして力が入っており、内容も良く、期待できる。日本で会われた蜂友を訪れ、旧交を温めて欲しいと思う。

その他の討議で、印象的だったのは、ベルギーの代表が出席して、第35回大会は国内事情により辞退させて頂きたいとの申し出があったこと、ルーマニアのアピモンディア関連（特に出版）の運営が難しくなっていること、中国からアピモンディアの施設をつくりたいとの申し出があったこと等である。

ご承知のように、アピモンディアの第1回大会は、1897年、ブルッセルで開催され、ローザンヌの次が丁度100年に当たることから、ベルギーということになった様であるが、かの国も



来年8月、第35回国際養蜂会議の開催地、ローザンヌ市

大きく変革している。

ルーマニアも、ソ連の崩壊、チャウシスク政権の倒壊後の後遺症が尾を引いている。第20回ブカレスト大会(1965)から約20年、ルーマニアのハルナジ教授がアピモンディアの会長を務め、これを国家がバックアップしていた事実を踏まえて、彼の死と国家の衰退は、アピモンディアにとって、大きな痛手である。

中国の申し出については、事前にファックスで知らされていたが、7日夕刻、広州市の副市長を含む6名が同席して計画を説明した。広州に国際養蜂センター(ミツバチ生産物研究センター、国際ミツバチ治療センター、養蜂博物館、宿泊施設を含む38階のビル等)を造りたいの

で協力して欲しいということである。アピモンディアとしては、中国と世界の養蜂家にとってプラスになることであればよいが、実状は、中国の養蜂家は貧しく、安い大量の生産物は世界の養蜂家を苦しめている。この事に対する回答が明確に示されなかったこともあって、結論は出さなかった。

以上、主要事項について記述させて頂いたが、問題はこれからである。人類が、資源の価値と環境汚染の代償を経済にインプットして自然に還元しない限り、また、アグリミニマムを導入しない限り、世界の養蜂は年々衰退するからである。地球の蜂友が一つになる意義が、100年後の今、問われているのである。

第34回 国際養蜂会議概要

会期: 1995年8月15日(火)~19日(土)

会場: スイス、ローザンヌ市、ポーリュエ宮殿

メインテーマ: 養蜂と環境

分科会:

ミツバチ生物学 ミツバチとその環境

ミツバチとその生命維持に必要なスペースの関係

ミツバチ病理学 蜂病の予防と治療

残留しない治療法

蜜源・花粉媒介者としてのミツバチ

環境インジケータとしてのミツバチ

養蜂経済学 環境と生態系のチャレンジと養蜂

養蜂生産物と消費者との関係

養蜂技術 養蜂業(プロ・アマ)の新技術

新しいアイデア、方法、道具の発表

ミツバチ治療学 養蜂生産物の品質と治療上の効果

生産物、合成、製造方法

発展途上国養蜂 養蜂と国際協力

養蜂業を発展させるためのよりよい国際協力

会議スケジュール:

8/14 午後 展示準備, 登録案内

8/15 午前 登録案内, 開会式, ミツバチ病理学

午後 ミツバチ病理学

夜 スイス、フォークの夕べ

APIEXPO 開幕, 同伴者プログラム

8/16 午前 発展途上国養蜂

午後 ミツバチ生産物

夜 フィルム, ビデオ

APIEXPO, 同伴者プログラム

8/17 午前・午後 養蜂見学旅行

APIEXPO (学生に開放)

8/18 午前 養蜂技術, 蜜源・花粉媒介

午後 ミツバチ治療学

夜 パネルディスカッション

APIEXPO, 同伴者プログラム

8/19 午前 養蜂経済

午後 アピモンディア総会, 閉会式,

サヨナラパーティ

APIEXPO (午後, 学生に開放)

公用語: フランス語, ドイツ語, イタリア語, 英語
(出席者数により, スペイン語, ロシア語, 日本語の
通訳が付く)

登録料:

全日程(5日)参加 SFR330 (同伴者270)

半日程(3日)参加 SFR220 (同伴者180)

1日参加 SFR 80 (*エスカーション含まず)

APIEXPO'95 スタンド料 SFR200/m²

*備考 SFR (スイスフラン) 対円交換率

1SFR=73.92円 (5月23日, 中値)

今後の予定:

ファーストサーキュラー 94. 6. 1

セカンドサーキュラー 10. 1

論文アブストラクト締切 .95. 1. 15

論文採用の返答 3. 3

出席への詳細通知 6. 1

開幕 8. 15

スイス, ミニ情報:

スイス人 ドイツ系75%, フランス系22%,

イタリア系3% (古都ローザンヌはフランス語圏)

養蜂家数 28,000人, 蜂群300,000群

問い合わせ先:

Mr. Milan Lusser

Secretary General APIMONDIA Congress '95

Dentenbergrasse 50,

CH-3076 Worb, Switzerland